

江南市
地域福祉計画・地域福祉活動計画
ボランティア団体・NPO団体ヒアリング
【結果報告書】

目次

1. 調査の概要.....	1
(1)調査目的	1
(2)調査の概要	1
(3)調査の対象団体	1
2. 調査結果	3
(1)団体の概要	3
(2)団体活動について.....	4
(3)活動を通じて感じている、これから特に支援が必要だと思う対象.....	8
(4)他団体との連携について.....	11
(5)住民主体サービスの一層の充実に向けて.....	14
(6)その他・自由意見	16

平成 29 年6月

江南市 福祉課

江南市社会福祉協議会

1. 調査の概要

(1) 調査目的

地域福祉に関するボランティア団体やNPO団体を対象に、江南市における地域福祉を取り巻く現状や課題、今後の方向性などをお聞きし、「江南市地域福祉計画・江南市地域福祉活動計画」策定の基礎資料とするためにヒアリング調査を実施しました。

(2) 調査の概要

①調査シートの配付期間

平成29年5月23日～6月12日

②調査方法

江南市内で活動するボランティア団体を対象に調査シートを配付し、回収しました。

(3) 調査の対象団体

調査の対象団体は次のとおりです。

■対象団体

	団体名	活動種別
1	江南市地域福祉研究会	地域福祉活動（福祉教育・ボランティア活動含む）の事例検討
2	手話サークル あげぼの会	障害者支援（手話）
3	点訳ボランティアたまづさ会	障害者支援（点訳）
4	声のボランティア「やまびこ」	障害者支援（音訳）
5	江南市要約筆記サークル 藤	障害者支援（要約筆記）
6	高齢者疑似体験ボランティアグループ さくら会	福祉教育活動
7	eye・愛サークル	福祉教育活動
8	ボランティアグループ あすなろ	障害者支援
9	ほのぼのサロン	高齢者支援（サロン）
10	ひまわりサロン	高齢者支援（サロン）
11	3R宮田サロン	高齢者支援（サロン）
12	菜の花サロン	高齢者支援（サロン）
13	ジョイフルサロン	高齢者支援（サロン）
14	ふれあいサロンなごやか	高齢者支援（サロン）

	団体名	活動種別
15	生き・いき・サロン前野	高齢者支援（サロン）
16	上奈良気ままサロン	高齢者支援（サロン）
17	ふじの郷サロン	高齢者支援（サロン）
18	新開・ふれあいサロン	高齢者支援（サロン）
19	サロンいまいちば	高齢者支援（サロン）
20	サロンふじの会	高齢者支援（サロン）
21	サロン「あじさいの会」	高齢者支援（サロン）
22	力長サロン	高齢者支援（サロン）
23	北山サロン	高齢者支援（サロン）
24	なか般若サロン	高齢者支援（サロン）
25	サロン前飛保	高齢者支援（サロン）
26	空色ファクトリー	障害者支援（精神障害）
27	精神保健福祉ボランティアグループあい・愛	障害者支援（精神障害）
28	朗読ボランティアあめんぼ・楡の会	障害者支援（音訳）
29	特定非営利活動法人 わいわいわい	子ども・子育て支援
30	NPO 法人 のいちご	子ども・子育て支援
31	NPO 法人 子どもと文化の森	子ども・子育て支援
32	視覚障害者パソコン学習グループありんこ 江南	障害者支援（視覚障害）
33	江南地域の SOS ネットワーク	高齢者支援
34	Be20's(ビートウェンティーズ)	環境美化活動
35	コミュネット江南	市民活動支援
36	飛高親の会	子ども・子育て支援
37	草井を元気にする会	子ども・子育て支援・地域活動
38	ふれあいサービス菜の花こうなん	高齢者支援（軽度生活支援）
39	江南市国際交流協会 ふくらの家	外国籍市民への支援

2. 調査結果

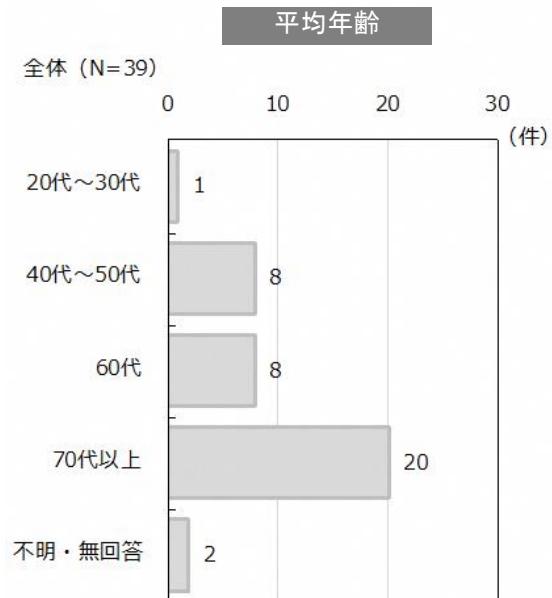
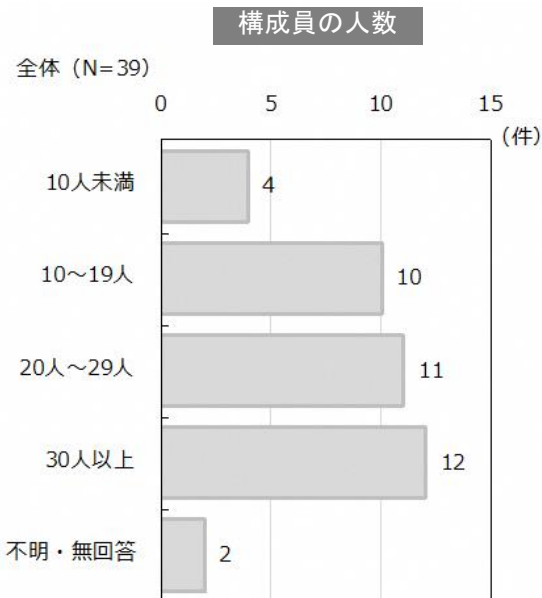
(1) 団体の概要

① 団体の構成員の人数と平均年齢

団体の構成員は「20～29人」「30人以上」が12件と最も多く、平均では約26人となっています。

平均年齢は「70代以上」が20件と最も多く、平均では約65歳となっています。特に高齢者向けサロン活動を実施している団体では平均年齢が70歳を超えています。

■ 団体の構成員の人数と平均年齢

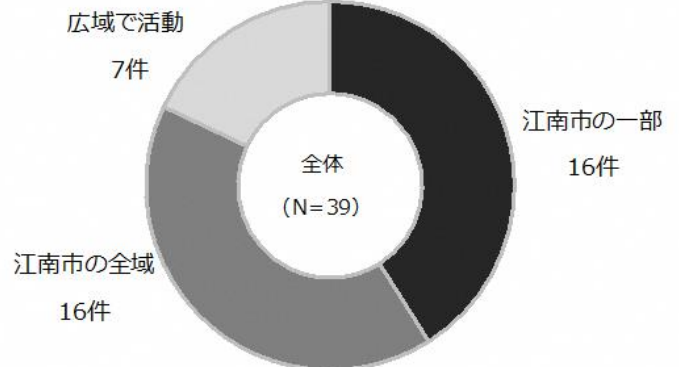


② 団体の活動範囲

高齢者向けサロン活動を実施している団体は身近な地域を活動範囲としているため「江南市の一部」と回答している団体が多く、障害者支援団体や市民活動支援に関する団体では「江南市の全域」と回答している団体が多くなっています。

■ 団体の活動範囲

江南市および近隣市など、

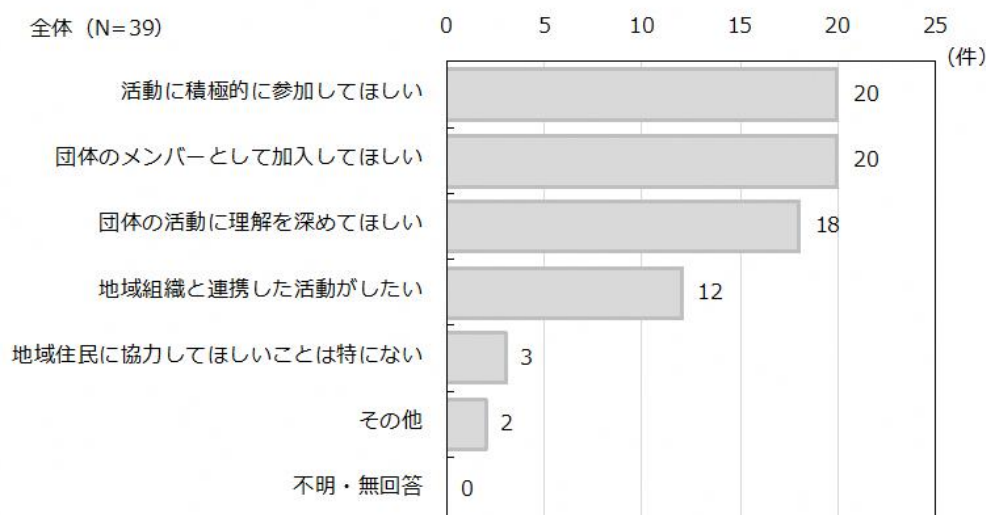


(2) 団体活動について

① 団体活動を進めるうえで、地域住民に協力してほしいこと

「活動に積極的に参加してほしい」「団体メンバーとして加入してほしい」が20件と最も多く、次いで「団体の活動に理解を深めてほしい」が18件となっています。

■ 地域住民に協力してほしいこと(複数回答)



【地域住民との連携や協力について、具体的なお意見】

活動の周知・活動への理解

- ・ボランティアに関わっていただける人を募集したいが、PR活動の効果が得られず困っている。
- ・毎日の生活をしながら人の役に立つことができる活動をしているが、団体の活動に対する住民の理解が薄い。
- ・江南市の視覚障害の方がどの位いるのかを知りたい。また、個人情報保護のため、その人たちへ私たちの活動を知らせる手段がない。また視覚障害者同士のつながりをつくってほしい。

活動への参加拡大

- ・一番の悩みは、会員が中々集まらないこと。
- ・参加してもらえるように声をかけたり、4月はじめに地区に案内も出したりしているのだが、あまり成果がない。
- ・活動も3年目になり、地域の方達にも少しずつ理解されるようになってきているが、会員の年齢が60歳以上の人が多く、住民からの行事の要望に答えられないこともあり、若い住民の参加や協力を働きかけていかなくてはいけないと思っている。

区・町内会等の地域組織との連携協力

- ・サロン立ち上げの前から区長、老人クラブの会長のお話を伺いながら準備してきたため、理解し協力していただけている。区長には毎月回覧板でサロンのお知らせを区民の方へ回していただいている。
- ・サロンへのお誘い案内のプリントを回覧していただけるので、区長には感謝している。

地域住民との連携協力

- ・住民に自分たちの地区を自分たちで少しでも住みよくしようという活動がしたいという思いを持ってもらえれば協力し合っているとと思う。
- ・近所の方の協力は大きい。迷子になっている人を連れて来てくれたりする。若者が少ない地域なので、人手の欲しいときにはいつも協力している。
- ・地域には様々な考え方の人がいるので、何をどう行っても必ず苦情がくる。区長・町内会長などが変わるたびに話が変わる。連携で始めたが、すべてこちらへ負担がまわってきた。連携ではなく、力のある人がリーダーとなって、自分たちで進めたい人が多い。
- ・地域にはこれまでの人間関係、力関係があるので、新しい活動には壁が多い。

その他

- ・あくまでも今の活動は学校のなかだけが多いので、外に出て活動する場合暖かい目でみてほしい。
- ・高齢になり足が弱ってきているため、会場に行くまでの交通手段（自転車、歩き、車に乗り合わせ等）に気をつけてほしい。
- ・男性の協力が全くない。
- ・江南市地域まちづくり補助金事業を行うことで、江南市の子育て支援を行っている団体や個人とつながり合って活動ができている。今後も広く仲間を集め、一緒に江南市が子育てしやすいまちになるよう活動していきたい。

②活動を進める中で、行政や社会福祉協議会に協力してほしいこと

「必要な情報の提供」が22件と突出して多くなっています。次いで「活動上の資金的援助」が13件、「活動場所の提供」が11件となっています。

■行政や社会福祉協議会に協力してほしいこと(複数回答)



【行政や社会福祉協議会との連携や協力について、具体的なご意見】

団体活動の周知広報

- ・会員を増やすために行政に情報提供や宣伝をして欲しい。視覚障害者に活動を知ってもらうために協力してほしい。
- ・サロン活動をもっと宣伝して、アピールを強めていただくとありがたい。
- ・対象者にアピールする協力をしてほしい。

活動場所への要望

- ・他の市町にあるような、ボランティアルームの確保。
- ・施設を利用するのが有料化になった。夜間に使用するとき、冬は寒くて夏は暑いので、昼間使用する人と同じように冷暖房をしてほしい。
- ・4月から始まった公共施設の利用について、2時間利用でなく1時間単位にしてほしい。
- ・活動場所が少ないので、地域包括支援センターなどの利用していない部屋などが利用できればよいと思う。
- ・視聴覚機器の完備（マイク、ラジカセ、プロジェクター等）。若い頃と違い、視力も弱かったり、難聴だったりするため、音響設備が整っていると、とても活動がしやすい。また、洋式のトイレ、和室用の低椅子等の整備。

支援対象者に関する情報提供

- ・点字を必要としている人が江南市に他にもいるのではないか。そういった情報を得るための支援がほしい。
- ・個人情報ということで教えていただけないことばかりである。ある程度のところまでもう少し教えていただけるとありがたい。
- ・私たちの会ができることを知りたいので情報共有ができればと思う。

支援対象者に対する理解浸透

- ・「聞こえない、聞こえにくい」は見た目ではわからない障害なので、本人が差支えなければ耳マークなどを身につけてもらい、それをみたら文字で伝えるということ、多くの人に知ってもらいたい。
- ・社会に参加しにくい難聴者の社会参加を進める方法を考えてほしい。

活動内容の充実への支援

- ・健康体操は、市や社会福祉協議会が講師になっていただけるとありがたい。
- ・サロンでは、毎月の行事内容のマンネリ化を防ぐため、情報を今より一層広げていただけるとありがたい。

行政や社会福祉協議会自身の勉強・研究

- ・市や社会福祉協議会の福祉を担当する方に、もっと難聴者の実態や要約筆記とは何かを知ってもらい、基礎技術などを学んでほしい。
- ・このようなアンケート調査も大切だとは思いますが、まずは担当者が「現場を知る」ことも重要な点だと思う。一日でもよいので、対象の団体に出向いて肌で活動を知ってほしい。

その他

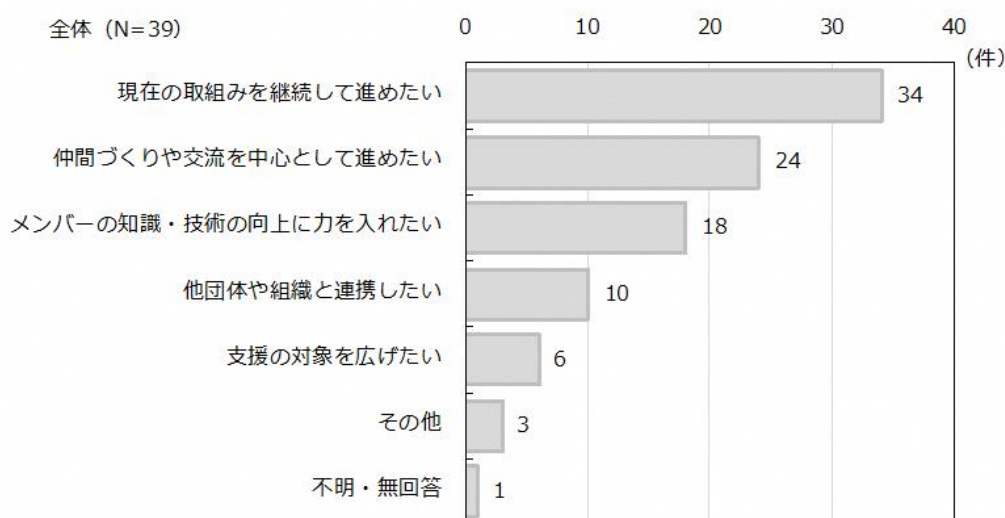
- ・発達障害のため仕事に就けないでいる人が多くあるのではないか。若者が働けずにいるのは、もったいない。
- ・移動手段。
- ・現在委託している包括を江南社会福祉協議会に一本化して公正中立な地域包括ケアをつくりあげてほしい。

- ・今は会主催の行事が地域に定着し始め、その行事を一つひとつ安全に行うことで精いっぱいだが、今後住人の要望等で新しいことに取り組むようなことがあれば、気軽に相談できるような窓口であってほしい。
- ・全般的に相談にのっていただきたい。

③団体活動の今後の方向性

「現在の取組みを継続して進めたい」が34件と最も多く、次いで「仲間づくりや交流を中心として進めたい」が24件となっています。

■今後の活動をどのように進めていきたいか



「団体活動について」の総括

支援を必要としている人に活動を届けるためにも、活動の周知や地域住民への理解浸透が必要。

参加者の確保には、地域組織と連携した周知も効果的。

地域に求めること、行政や社会福祉協議会に求めることのいずれにおいても、活動自体の認知度の向上、効果的なPRが必要であるとの声があがっています。

個人情報の関係で地域における支援対象者の存在がわかりにくくなっている、という声もあがっています。支援が必要な人に支援が行き届くようにするためにも、活動の周知や、需要と供給のマッチングが必要となっています。

また、地域との連携状況として、身近な地域で活動を展開しているサロンと区・町内会、老人クラブの連携協力体制があり、参加の呼びかけがスムーズにできているとの意見があがっています。

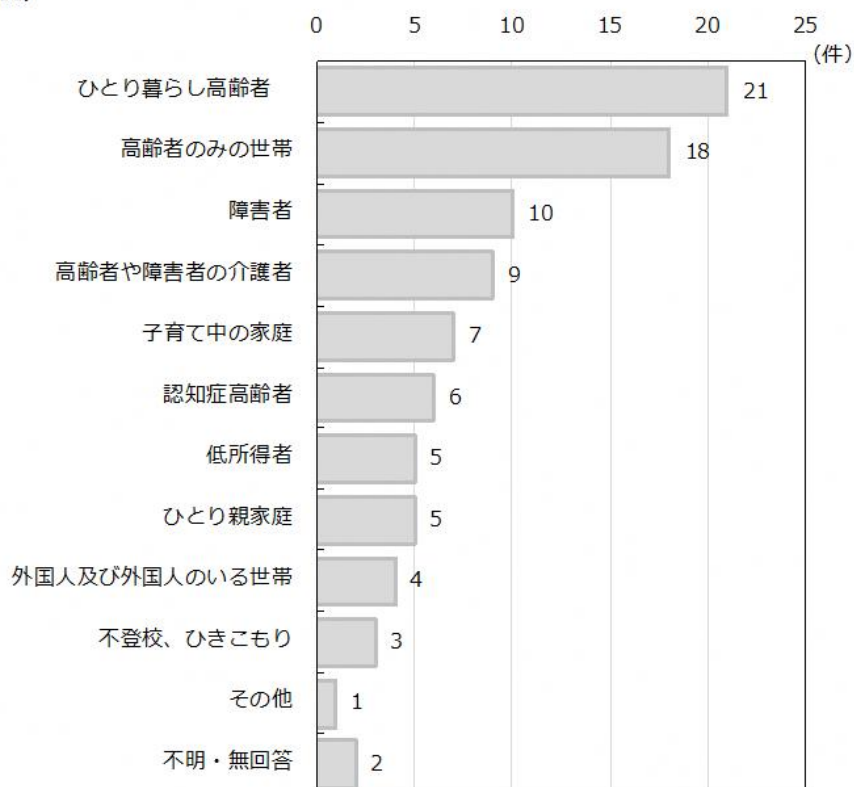
(3) 活動を通じて感じている、これから特に支援が必要だと思う対象

① 支援が必要な対象

「ひとり暮らし高齢者」が21件と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」が18件となっています。

■ 特に支援が必要だと思う対象(複数回答)

全体 (N=39)



② 支援が必要だと感じる理由

支援が必要な対象	理由
・認知症高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方は一人で会場まで来るのが難しい。足腰が弱ったり膝が痛くなったりすることで参加が難しい方も増えている。 ・ ここ数年の間に認知症や病気でサロンに参加できなくなった方が複数いたということから、そうなった場合サロンで支援できることは何もないと痛感している。
・高齢者のみの世帯 ・障害者 ・高齢者や障害者の介護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢で難聴になると家に閉じこもりがちになる。 ・ 聴覚に障害があると他者と意思の疎通が難しくなるため、日常生活、社会生活が不便になる。

支援が必要な対象	理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者 ・高齢者のみの世帯 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でもひとり暮らしの方は外へ出られる機会が多いようだが老夫婦二人で生活しておられる方は外出機会が少ないように思う。 ・ひとり暮らし高齢者だと活動になかなか興味を持っていただけず、一番参加して欲しい人が増やせない。 ・前野地区では、ひとり暮らしの人はほとんど借家が多く、狭いなかでは足腰が弱くなり、寝たきりになるようだ。また、地区になじめないようで、親しい人もいないように思われる。 ・高齢者との立ち話のなかで、人手が足りなかったりちょっとしたことで相談したいことがあるといった困りごとを聞くことがある。 ・お年寄りには遠慮深い方も多いため、「他の人に迷惑をかけてまで…」と家に閉じこもってしまうように感じる。そのため、物忘れが多いことなど気軽に相談する機会が乏しくなるように思う。 ・誰にも看取られず亡くなられた方や、免許証を返上して買い物、病院通い等、足回りに困られている方など。 ・あまり外に出られない人が多いように思う。顔を見ないがどうしているのかなと思いつながりながら、用もないのに訪ねる訳にもいかず、そこで終わってしまう。 ・道で会ってお話するときにはいろいろ嬉しそうに話してくれるが、集いの場などに集まるのはなかなか難しい。家の中でも話し相手がいらない高齢者の方も多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者 ・高齢者や障害者の介護者 ・不登校、ひきこもり 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の高齢化について親と当事者、両者から将来の不安の声を聞く。また、当事者の親から引きこもっている当事者について外部の支援とつながることの困難さを聞く。家族にサポート能力がなくなったときの不安の気持ちを聞くが、すぐには解決できないため、まず家族への支援が必要なのだろうと思う。 ・フリースペース「ハートフレンズ」に参加している精神障害者の方と話していると、学校でいじめを受けた事があるという方が少なくない。いじめを理由とした不登校・ひきこもりが、精神障害につながってしまう傾向がある。そうならないための支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者 ・子育て中の家庭 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報はあふれるほどあるのに、どれを選べばよいか分からないという声をよく聞く。子育てに不安のある保護者、障害や弱さのある子への手立てや支援が、私たちにできることだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭 ・子育て中の家庭 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児とその親が集う広場に来ている親子はまだ安心だが、人と交流をしない孤立した子育てをしている親子をどうサポートしたらよいか。子育てと介護の両面で悩んでいる家族のサポートもできたらと思う。

支援が必要な対象	理由
<ul style="list-style-type: none"> ・低所得者 ・外国人及び外国人のいる世帯 	<ul style="list-style-type: none"> ・江南市の情報伝達方法が上手く行きわたっていない。福祉給付金の手続き書類など手元に届いても書き方が分からず放置される家庭が多い。生計を担う人の理解レベルが無いとお金に困る人が増す。 ・外国人の場合夜勤が多い。そのため子どもは1人で夜を過ごすこともある。子どもの貧困も多い。 ・これはいろんな地域課題の元になりやすいのと、周りの人達の「住み心地」にも響くし、江南の活性化にも関わることだと思う。

「特に支援が必要だと思う対象」の総括

高齢者世帯については多くの方が課題を感じており、特に閉じこもり防止・外出支援に力点を置くことが求められている。

複合的な課題を抱える家庭への対応も必要。

回答いただいた団体自身が支援している対象を「特に支援が必要だと思う対象」としてあげることが多いものの、高齢者関係の項目は、活動種別に関わらず多く回答されました。

高齢者については主に外出支援について多く意見があがっています。閉じこもり防止のための活動への参加の呼びかけ、移動手段の充実が求められています。

いじめから精神障害につながっている方、外国人世帯で情報がうまく受け取れず生活困難になっている方など、複合的な課題を抱える家庭についての意見も多くなっており、関係機関が連携しながら対応していくことが必要となっています。

(4) 他団体との連携について

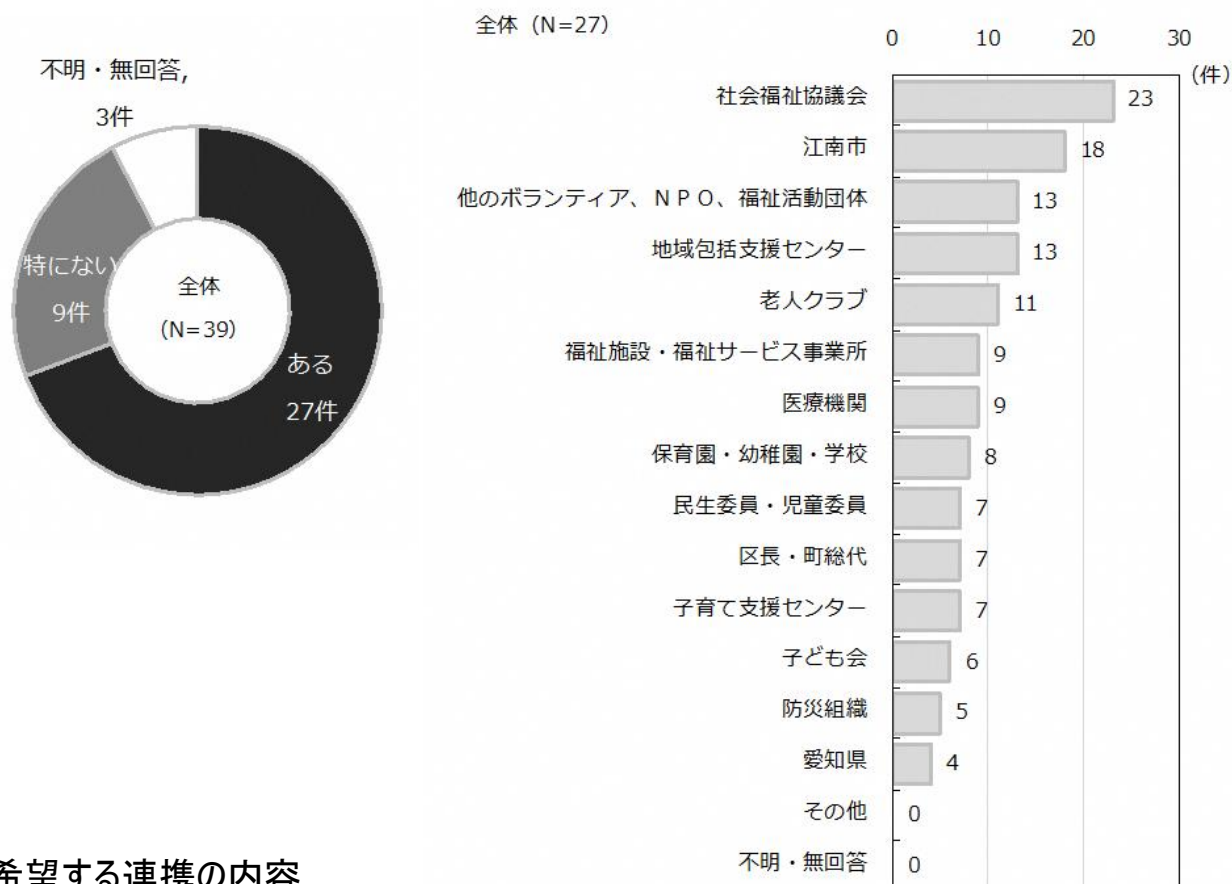
①連携を取りたい組織・団体があるか

「ある」が27件となっています。

②連携をとりたい組織・団体

「社会福祉協議会」が23件と最も多くなっています。

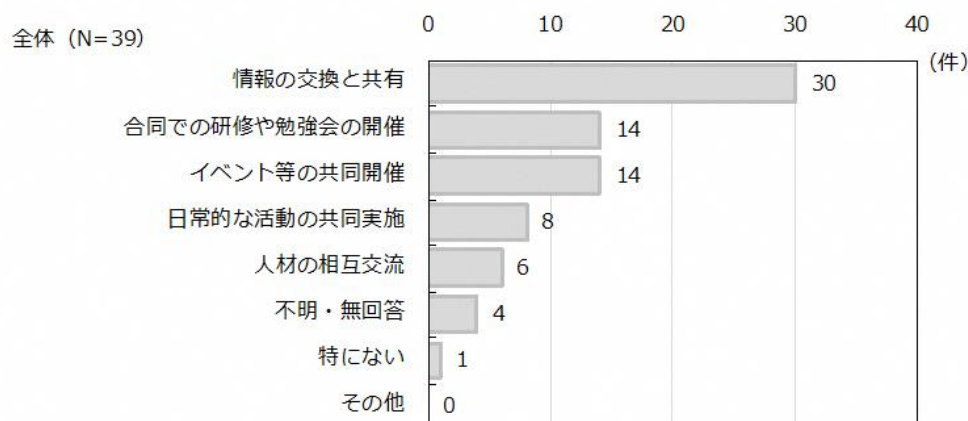
■連携を取りたい組織・団体の有無(単数回答) ■連携を取りたい組織・団体(複数回答)



③希望する連携の内容

「情報の交換と共有」が30件と突出して高く、次いで「合同での研修や勉強会の開催」「イベント等の共同開催」がともに14件となっています。

■希望する連携の内容(複数回答)



【連携して活動する場合の具体的なイメージ】

- ・視覚障害の方の公助に携わっている人たちとの話し合いができればと思う。
- ・市役所等の公共機関で体験させてほしい。これからの世代を背負う児童生徒に、体の不自由、目の不自由、段差等装具をつけて書類を書いたりする体験をさせてほしい。
- ・福祉バスを使つての研修。
- ・近隣のサロン（例えば宮田サロン等）の方たちと連携して、一部分を合同で活動する。
- ・交流により活動内容を紹介したり、地域の情報を得たりしたい。
- ・現在の活動の理解を得るため、合同で「お試し参加」などしてメンバーの増加を進めたい。
- ・情報交換交流会。
- ・精神障害に対する偏見をなくし、理解を深めるための交流をしたい。納涼パーティやクリスマス会にぜひ参加ください。
- ・同じテーマで共感できるもの。講座や講演会、お祭り、交流等。
- ・シニアネットや健常者のパソコン教室。
- ・江南市内にあるいろいろな団体とつながりたい。地域エリアで情報を伝達する仕組みを作り、江南市ネットワークを活用して道に迷った人を助けたり、ゴミ屋敷にならない生活を支えたい。ためになる情報を少しでも多くの人に知ってもらえるように団体の理解をしてほしい。
- ・若い力を地域の方々に還元できればと思う。地域行事、各種イベント等。
- ・とにかく寄り添って何をどうして、どんな結果を望んでいるのか、しっかり把握して手助けしていきたい。
- ・子育て支援者の研修や勉強会ができればよい。子育て支援団体や個人が集まり、今後の江南市の子育てしやすいまちづくりのため、江南市に提言していけるとよい。
- ・「江南子育て応援団」というような、子育て支援ネットワークをつくりたい。
- ・多くの方、様々な団体から少しずつ力をお借りして、江南子育てサロンを開催したい。

④他団体との連携において困っていること

「組織・団体の人と出会う機会がない」が6件、「自分が多忙で連携まで手が回らない」が5件となっています。



「他団体との連携について」の総括

連携の必要性を感じている団体は多いため、場や機会を提供していくことが必要。

連携を取りたい組織・団体としては社会福祉協議会、江南市、地域包括支援センターといった公的機関が多いものの、他のボランティア、NPO、福祉活動団体も多く回答されています。

情報共有をすることでより効果的な活動につなげていけると考えている団体が多いものの、他の団体と出会う機会がないとの声も多く、組織を有機的につなげていくコーディネート機能が求められています。

(5)住民主体サービスの一層の充実に向けて

【住民主体サービスを今後一層充実させていくために必要なこと】

情報提供

- ・支援を求める側が、どのような福祉サービスが現在提供されているか知るための情報支援。
- ・「個人情報の保護」がネックになって市の福祉課や社会福祉協議会ですら、協力が得られず、視覚障害の方ですら、仲間を知る機会が得られず困っている。

財政的な援助

- ・手話通訳者は市役所などに常駐に近い形であるが、要約筆記はまったくない。資格そのものの有無よりも、行政の方から低賃金でもよいので出していただき、活動を学校だけではなく一般的にできるようになれば、障害者の方々の思いに少しでも近づけるのではないかと思う。
- ・予算に限りがあり、イベントをすればどうしても個人負担をお願いすることになり現在の予算額では活動に限りが出る。

移動支援

- ・施設減額などで福祉バスを利用しているが、大型1台だけであるため、ずいぶん早くから申し込みしなければならず、また希望日に取れないこともあるため、中型くらいでもう1台福祉バスを増やしてほしい。
- ・どこかに移動して何かをしようと思っても、江南市の場合特に乗り物がないことに不便を感じる。前もってお願いすればいこまいカーも使用できるが、10人以上となると動きが取れない。
- ・会場までの送迎の確保。ボランティアや会員(視覚障害者)の募集や宣伝に協力して欲しい。

ボランティア確保・活動の継続

- ・夏休みや冬休みなどに、期間限定のボランティア募集を学生向けに発信する。
- ・ボランティア活動を主体的かつ継続的に取り組む事ができる仕組みが必要。特に継続性の困難さについては有償化することが解決につながるのではと考える。
- ・サービスをしっかりと継続的に質を高く保つには、仕事として行えなければ、知識も経験も積み上げられないので、そこをどうするかだと思う。

指導者・推進主体

- ・健康体操を実施しているが、費用、講師が難しい。地域で進めるといっても、素人が前に立って進めていくことがとてもできない。できる人がいても、周りの協力が得られないと難しい。市や社会福祉協議会に支援を求めている。
- ・地域の公民館を利用して介護予防、病気予防の為にストレッチや健康教室の開設、ダンス教室等、新しいことに挑戦することで、認知症予防になる。そのための音頭取りを市や地区役員に取っていただきたい。

コーディネート機能の強化

- ・小地域での組織化支援。
- ・江南市内にはいろいろな活動団体があり、素晴らしい考えの人もいるが、ばらばらに活動しているので、江南サポートセンターをつくり、バラバラの団体を把握して仲間同士

に情報伝達するツールをつくるとよい。江南社会福祉協議会とNPO団体とが1つにまとまるとよい。

- ・需要側と供給側が出会える機会をいろいろな方法(雑誌、インターネット、その他)で設けていくことが必要と考える。需要側の情報収集方法と供給者情報提供方法が異なる場合があるため。

その他

- ・大人のケアのみならず、子どものケアも必要である。夜勤明けの親が朝ご飯をつくってあげられない子どもも多くある。子ども食堂など考えていきたい。
- ・地域住民に伝わっておらず、分かっていないし、考えていない人が多いのではないかと思う。
- ・子育てに優しい地域になればよい。高齢者が集う公園がスペースも数もあるが、乳幼児を持つ家庭や団体が安心して遊べる公園がとても少ないし、あっても合成樹脂製の静電気の起こる遊具が主である。赤ちゃんから高齢者までが集い、将来の担い手となる子どもが健全に育つ環境づくりをお願いしたい。
- ・お互い様の精神を誰もが持ち、お互いに住みよいまちづくりの啓発活動をお願いしたい。

「住民主体サービスの一層の充実に向けて」の総括

活動の持続性確保のための人づくり・仕組みづくりが重要。

支援を求める側である「需要」と支援を提供する側である「供給」のマッチングも大切。

現在の団体活動上の困難とも通じる部分として、情報の不足、移動手段の少なさ、財政的支援の必要性が課題としてあげられています。

活動の持続性の確保に必要な「人づくり」「仕組みづくり」の部分も意見としてあがっており、担い手の裾野拡大のための学生に向けた情報発信、ボランティア活動の有償化・仕事化が必要であるという声があがっています。

また、より効果的な活動を行うための活動主体者のコーディネート・小地域での組織化支援といった「供給側」のネットワーク・仕組みづくりが求められています。それに加えて、個人情報の壁があり、支援を求めている人の情報がうまく支援者側に伝わっていないという課題があるなかで、「需要」と「供給」をいかにマッチングしていくかが重要となっています。

(6)その他・自由意見

- ・いろいろと福祉政策が充実してきてはいるが、知らないとその恩恵を受けられない。自らが、あるいは家族が市役所などに出向ける人はよいが、高齢になると、広報・社協だよりも読まず、知らないままになっていることが多いのではないか。地域のなかでアドバイスしてもらえ人をたくさん育てるとよいと思う。(ゴミ出し、お宮掃除当番、人が集まる機会に声かけしてもらえ人を育てるなど。)
- ・各施設の有料化がはじまったが、2時間きざみの利用ではとても不便である。1時間きざみの料金にしていただけたらありがたい。
- ・日ごろ、宮田学供で活動しているが、今年の冬、雪が凍って轍ができ、車いすでの走行が非常に困難で危険だった。近くに宮田支所もあり職員や学供の方もいたのに雪かきがしていなかったのは非常に残念であった。
- ・玄関もバリアフリーになっていないため、車いすの場合、都度渡し板を置き利用しているが、風の強い日などドアが閉められないため不便である。ぜひ玄関のバリアフリー化、スロープの手すりつけをお願いしたい。また、学供の方から車いすの場合は通路に布雑巾を敷くように言われたため行っているが、古知野西学供ではこのようなことは言われなかった。ご一考をお願いしたい。
- ・当事者（サービスを受ける側）の思いや声を把握されているのであれば、ボランティアスタッフに伝えてほしい。一体どのようなことを希望しているのか、どのような意見を持っているのかなど、要望をすべてボランティアで行うということではないが、当事者の思いがわからないのに一方通行になっては効果がないと思う。
- ・移動手段が困難である。手軽に利用できるバスなどがほしい。
- ・介護保険制度、サービスの内容が少し変わり、家族の経済負担、労働（介護等における）負担が増すなか、支援活動が重要な課題となってきた。利用しやすいシステム、工夫をお願いしたい。
- ・江南市内サロン全体が参加参画できる何かができればと思っている。
- ・高齢者社会が進んでいるなか、高齢者同士が助け合える雰囲気づくりのため、各地区のように小さい地域で、気楽にできる参加型イベントを開催していただけたらそれが「呼び水」となり、他の活動にも参加してもらえそうであると思っている。
- ・会場に自転車で来ている80歳くらいの女性がいますが、歩くにはちょっと距離があり、雨天などではこられない。次にお願いするスタッフさんがなかなか決まらなくて困っている。負担がかからないように仕事を少なくなるように考えて進めなくてほしい。来月のサロンを楽しみにされているのがうれしい。会場づくり、片付けも手伝ってくださるし、皆で和気あいあいとやっている。
- ・障害にもいろいろあるが、精神障害への理解のなさは特別だと思う。互いに温かいまなざしを持って見守ることができたら、誰もが住みよいまちになると思う。
- ・どの子も育つと考えて、日々活動している。障害や弱さのある子もそうでない子も、社会の一員として誰もが思えるとよい。幼い頃からいろいろな人と触れ合い、色々な体験、経験ができることで、心も体も育つ。ひとつでも多く、感動し、その感動が共有できるものがあってほしいと思う。
- ・市役所に対して、「教室の活動支援ボランティア、学習会員を募集する際の支援。(例 市広報誌等への掲載の簡素化)」「福祉祭り等の参加にあたって経費補助(一昨年まで2000円の補助の復活)」「施設利用料金の免除(高齢者・障害者等が活動する団体教室について利用料免除または一部免除)」を要望。

- ・社会福祉協議会に対して、「教室の活動を「社協だより」に掲載しPRする」「障がい者会員の会場までの送迎ボランティアの充実」を要望。
- ・江南市は福祉として大手法人が制度を活用したサービスを充実させているが、市民が支払う税として高いと思う。サービスを充実することが地域の暮らしをよくするとは思えない。もう少し市民のためになる施設に税金を使ってほしい（例えば、老人福祉センターを明るく誰もが気軽に集まれる場所にするなど）。公民館など、歩いて行けるところに人々が集まり、体操をする話し合いをするサロンづくりをしてほしい（介護保険のサービス施設が多すぎる）。※特養など江南市民以外が入居している数が多い。介護保険を使わない人々を増やす活動を包括センターが進めてほしい。
- ・地域福祉について。少子高齢化の進む今、まだまだ地域で活動する人、または地域のことには参加できる人がいる。サロンや健康体操教室などを通して大人も子どもも互いに支えあうことの大切さを感じている。「地域で支えあう生活支援のための体制の確保」のために、公的支援も必要である。今、気になるのは、健康体操教室の6か月補助。きっかけづくりのため、または自立を促すための意味はわかるが、中途半端な支援ではないか。地域福祉、地域共生社会をめざすなら、持続可能な支援が必要だと思う。他の市町村の例なども参考にさせていただければと思う。